

むつ総合病院



病院長から
小川 克弘氏

「経験」重視による裾野の広い 医師の養成をめざして

むつ総合病院は、青森県下北半島のほぼ中央部に位置する1市1町3村による自治体立病院です。半島内唯一の総合病院であり、中核基幹病院

でもあるため多くの患者が集中します。また、県内主要都市から遠隔にあるため、当院での完結が求められております。このような、社会的、地理的背景から豊富な症例の経験が可能です。

当院は、2004年度からの新医師臨床研修制度にいち早く手を挙げ、単独型研修病院の指定を受けました。それは、研修病院すなわち教育病院になることが病院機能の向上につながり、ひいては地域住民に質の高い医療を提供できると考えたことと、この豊富な症例が研修医にとっては宝の山だと考えたからです。

当院での研修医教育は「経験」に重きを置いています。臨床医にとっては内科系、外科系にかかわらず「経験」こそが基本だと考えているからです。もちろん科学的、論理的裏づけができるようになることも重要です。しかし基本は「経験」にあると考えています。したがって当院では幅広く、多くを経験させることをモットーにしています。

一方、研修医にとっては、なんでも気軽に聞ける相談しやすい指導医や医療スタッフの存在、各診療科の壁がない、和やかな医局など、研修環境も重要です。当院は、研修病院に指定される以前から伝統的に家族的な雰囲気があり、伸び伸びと研修できる環境にあります。



下北半島には手つかずの大自然が残されており、自然環境も抜群です。山菜採り、溪

流釣り、海釣り、野鳥観察、森林浴、スキー、温泉めぐりなどいろいろと楽しめるほか、魚介類がとにかく理屈抜きでおいしいのも魅力です。

研修責任者から

副院長
坂井 哲博氏

質の高い医師を育てる「ムツ」 「量」から「質」へ

「へき地」のイメージがある青森県でも、下北半島は地域医療、広域医療の最前線です。むつ総合病院は、3次救急や地域がん診療連携拠点病院など多くの機能が求められ、その責任を病院一丸となって果たしつづけています。

当院の最大の特徴は、医師の「数」ではなく、「質」を大切にする姿勢です。「質」の高い医師を「育てる」という信念です。この信念は病院全体に表れています。当院の取り組みが厚労省に注目され、院長が2008年4月に外添大臣に直接プレゼンテーションを行ったのはこの証左であり、毎年多くの学生が研修を希望してくれています。

研修の特徴は、下北半島全体から集まる豊富な臨床例を、救急外来から検査、手術、リハビリテーションにいたるまで追跡できる症例追跡方式をとっている点です。また、弘前大学の各教室と強い連携を持ち、高度な専門技術、先進医療、基礎研究などを含む後期研修を視野に入れた指導も行っていきます。

ぜひ、見学にいらしてください。

●DATA

開設者：むつ市長／宮下順一郎
病院長：小川克弘
所在地：〒035-8601 青森県むつ市小川町1-2-8
TEL：0175-22-2111
FAX：0175-22-4439
URL：http://www.hospital-mutsu.or.jp/
交通：東北本線野辺地駅より大湊線で約1時間、下北駅より車約5分
病床数：486床
医師数：59名（2008年5月31日現在）
指導医数：38名（同上）
研修医数：初期15名／後期1名
1日平均入院患者数：399.9名（2007年度）
1日平均外来患者数：1,370名（同上）
診療科目：内科、消化器外科、循環器科、外科、小児科、小児神経科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、メンタルヘルス科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、放射線科、皮膚科、形成外科、麻酔科、リハビリテーション科、総合科、臨床病理科、救急診療科、歯科口腔外科
主な設備など：トータルオーダーリングシステム、ライナック治療装置、MRI装置、マルチスライスCT装置、血管連続撮影装置CT付、ガンマカメラ、手術用顕微鏡、麻酔記録装置

●病院の特徴

青森県下北半島における唯一の総合病院であり中核病院である。地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急告示病院、へき地中核病院などの指定を受け、下北地域での拠点病院としての役割を担っている。また、2次救急を担うこととなっているが、実際は3次救急も対象とすることが多い。そのため多様な症例を経験できることから、特に初期研修には適した病院である。また、地域住民に「信頼される病院になる」ことを基本理念に、良質な、満足度の高い、安全・安心な医療の提供に努めるとともに、挨拶と笑顔、心のこもった接遇及び健全な病院経営に努めることを基本方針としている。

●プログラムの目的と特徴

目的：新医師臨床研修制度において厚生労働省が示す研修理念に沿ってプログラムが作成されており、臨床研修にあたっては、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的診療能力（態度、技能、知識）を身につけることを目的としている。特に、医療人として必要な基本的姿勢や態度を身につけるとともに、患者・医師関係、医療スタッフなどとのコミュニケーション能力を養うことに力を注いでいる

特徴：1年次は、基本研修科として内科系（主として、消化器内科を中心とした一般内科、循環器科）を6ヵ月、外科系（消化器外科、整形外科、泌尿器科、脳外科などのほか、救急・麻酔科含む）を6ヵ月、2年次は、必修科（小児科、産婦人科、精神科、地域医療）を6ヵ月、残り6ヵ月は希望する診療科を自由に選択することができる。研修医が受け持った症例の一部については、各科の壁を越えて一貫して診ていく方式（追跡方式）を取り入れている。また、弘前大学とのたすきがけにより、1年次または2年次のみ同院で研修する場合もある。

同院では、臨床経験7年以上の医師には積極的に公認の指導医養成講座を受講するように勤めており、指導医の養成にも力を注いでいる。熱い指導医が各科にいるため、充実した幅広い研修ができるのも特徴のひとつである。また、ERカンファ、ドーナツカンファ（自由テーマで研修医だけで行うカンファレンス）、研修医による症例発表会、外部講師による勉強会なども行われている

●処遇

身分：嘱託職員（正職員に準じる）
給与：月額1年次500,000円・2年次584,000円
保険：社会保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、病院賠償責任保険、勤務医師賠償責任保険
宿舍：あり

●初期研修修了後

同院での後期研修も可能であるほか、大学病院、他病院への進路も用意されている。

教育熱心な指導医たちによる 科の枠組みを越えた内容の濃い研修

指導医に聞く
泌尿器科部長
吉川 和暁氏

むつ総合病院の研修は、(1)下北半島ならではのイベント、(2)開放的な医局のスペースが醸し出すムード、(3)教育熱心な医師の集まり、(4)研修専門事務のサポートを特徴として、4年間歩んできました。熱意あふれる若者たちが集まり、さまざまな教室や病院から、新しい風を吹き込む指導医の維持・補充がなされました。しかし、すべてが順風満帆ではありません。当院には超カリスマ医師はいませんが、すべての科が網羅されていません。我々はその中規模病院としての性格から、研修

医教育の議論を、上下関係を抜きに行ってきた。常に反省と検討の日々ではありますが、現場主義を掲げ、方針がぶれないように試行錯誤を繰り返しながらチームワークが育ちました。いつしか当院には、科の枠組みを越えた熱い男たちがバランス良く集結しました。研修医教育活動の成否の鍵は、実は指導医側の成長にこそあるのかもしれない。

研修医に聞く
2年次研修医
矢越 雄太氏

指導医にすぐに相談できる 開放的な環境での充実した研修生活

むつ総合病院の研修の特徴には、研修医を対象としたカンファレンスや勉強会が挙げられると思

います。

具体的には、ERカンファ及び院内勉強会が隔週で行われており、研修医は、どの科をローテート中でもこれらに参加します。ERカンファでは実際に経験した症例を持ち寄り、ディスカッションをすることで、思考能力の向上をめざしています。また、院内勉強会は主に救急外来で役立つ知識の提供の場となっており、研修医がテーマを選択し指導医に講義していただいています。そのほか、研修医独自で行う早朝勉強会、プレゼンテーション能力向上の場としての院内症例検討会が行われています。

当院の医局は非常にオープンな雰囲気です。研修医の机も指導医と同じ医局内にあり、困ったことがあればいつでも相談できる環境です。

ほかにも当院の良い点は、まだまだあります。マグロの勢いを感じられる本州最北の地で、充実した研修生活を送りましょう。